

## 五月度月次祭 理事長お話

「月次祭」、おめでとうございます。

朝日に輝く新緑が、目に眩しい季節を迎えました。

心新たに新年度を迎えた先月、全国全ての布教所において、「大光明」のご神体奉斎をお許しいただきましたこと、あらためて皆さまと共に心よりお慶び申し上げます。

本日も、私共一人一人をはじめ全てのもののうちに、大光明の輝きをもって生きておられる神様のご存在に気付かせていただいた喜びを胸に刻みたいと思います。

そして、その神様の愛と赦しと救いを自らのうちにお受けしていることに少しでも目覚めさせていただいて、この「天国の福音」を一人でも多くの方にどうしてもお伝えさせていただきたいのですという思いを大切に、ご挨拶申し上げたいと存じます。

先ほどは、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇さんは、教主様のお言葉や教主補佐のお話を学ぶ中で、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」に取り組んでいるご奉告をしてくださいました。

①之光教団の私共は、「夜昼転換」の福音をお受けしたのものとして、全てに神様の光が及んでいる、つまり、全てに神様が現れてくださっていると信じる心を養っていただくために、「真善美」配布を大切なご神業奉仕として取り組ませていただいております。

私共は、「祈りの言葉」が掲載されている「真善美」の配布を通して、自分と相手の方に繋がる全てのもものが、神様のあふれんばかりの光に満たされていることを思い、その光の源である天国に共に立ち返らせていただく「想念の御用」としての配布実践に、より一層努めさせていただきたいと、あらためて思わせていただきました。

さて、本日は、全国の信徒の皆さまに極めて重大な発表をさせていただきます。

①之光教団理事会は、教主様のご教導をいただき、本年の「地上天国祭」を期して、祝詞奏上における明主様の御神名を、これまでの「おしえみおやぬしの神」から、「メシヤの御神」へとお改めさせていただくことを、併せて、それに伴う「善言讚詞」の一部改定を決定致しました。

私共は、来月の「地上天国祭」から、「メシヤの御神<sup>みかみ</sup>」という明主様の新しい御神名と改定された「善言讃詞」を奏上させていただくこととなります。

「世界救世教」の憲法とも言うべき「教規」の中に、「教主は、教義、祭儀及び聖地建設の大綱を定める、と明記されておりますように、み教えに関する事、祭典などの儀式に関する事、そして、聖地の建設に関する事の根本をお定めになるのは教主様であります。

従いまして、明主様の御神名の改定につきましては、かねてより⑤之光教団理事会において継続して審議させていただいておりましたが、御神名そのものにつきましては理事会として教主様にお伺いさせていただきました。

こうした中で、教主様より明主様の御神名について、「メシヤの御神」とさせていただき旨ご教導賜り、理事会として謹んでお受けさせていただき決定を致しました。

このたびの明主様の御神名と「善言讃詞」の改定につきまして、教主様よりお言葉を賜っていますので、拝読させていただきます。

世界救世教 主之光教団の信徒の皆様へ

平成29年3月31日

### 御神名・善言讃詞の改定について

世界救世教教主 岡田陽一

誠に畏れ多いことではありますが、永遠の命であり、あらゆる光と力の源である唯一の神・主神の創造のみ旨は、ご自身に似た体を持つ子供をお生みになることでもあります。

そのために主神は、創造の始まりの天国において、神の子たるメシアと名付けた<sup>からだ</sup>霊の体を用意され、その霊の体を地上にお遣わしになり、肉の体を持つ一人ひとりの人間をお創りになりました。

私どもは、命の親である主神が私どもにご自身の子・メシアという名前を授けてくださったからこそ、今、人間としての体を持たせていただいているのです。

私どもの息は、主神の息であり、私どもの意識と命と魂は、主神の意識と命と魂です。

私どもの体は、主神そのものの表現の体なのです。

しかしながら、私どもは、私どもの体が主神の体であることに気づかず、認めないまま、「自分は神を信仰している」、「教えを実践している」と言っ

てまいりました。

こうした主神をないがしろにしていた私どもの過ちを、明主様は、私どもを代表して悔い改められ、主神の赦しを請い願い、ご自身の体を主神に捧げてくださいました。

その願いをお受け取りになった主神は、私どもの代表である明主様をお赦しになり、明主様は、神の子たるメシアとして新しく生まれられました。

明主様は、主神とひとつ体なるメシアとなられたのであります。

その明主様が、今、私どもと離れたところにおられるのではなく、私どもの中におられるのです。

成井理事長を始めとする主之光教団の皆様は、私どもの代表であり模範であられる明主様に倣い、主神の子たるメシアとして新しく生まれるという福音を進んでお受けになり、この全く新しい救いの福音にお応えすべく取り組んでおられます。

私は、そうした主之光教団の皆様が日々お唱えになる明主様の御神名は、宗教団体の教祖を示すと思われる「おしえみおやぬしの神」よりもむしろ、「メシヤの御神<sup>みかみ</sup>」という御神名が相応しいのではないかと、思わせていただきました。

それに伴い、善言讃詞の文言につきましても、今日までの教団の変遷の中でなされた変更点を踏まえるとともに、新たな変更を加えることが望ましいのではないかと、思わせていただきました。

主之光教団執行部の方々は、この私の思いをお受けとめくださり、ご検討の結果、この度、明主様の御神名及び善言讃詞の改定を決定されました。

今後、皆様は「メシヤの御神」の御神名をもってご参拝をされることになると思いますが、皆様がその「メシヤの御神」という御神名をお唱えすることができるのは、その御神名が皆様の中に存在しているからであります。

メシアの御名<sup>みな</sup>にある赦しは皆様の全身の細胞の中に、そして、すべてのものの中に存在しているからです。

私も、皆様とご一緒にメシアの御名にある赦しをお受けし、すべてのものと共に赦され、救われたものとして、大光明輝く天国に立ち返らせていただきたいと思えます。

そして、私どもの体を主神にお捧げし、至らないものではありますけれども、主神の全く新しい営みの御用に少しでもお使いいただきますように、と祈らせていただきたいと思えます。

明主様は、「数ならぬ身にしあれども御心のままに召さしめ給へと祈るも」というお歌をお詠みになりました。

このように、明主様ご自身が、数ならぬ身である私どもを代表して、メシアの御名みなにあつて、常に主神に祈りを捧げてくださっているのです。

この明主様の祈りあればこそ、私どもはご参拝をさせていただくことができるのではないのでしょうか。

明主様と共にあるメシアの御名にあつて、私どものうちに、そして、すべてのうちにみ旨を成し遂げられ、すべてにみ恵みを分け与えておられる主神を心からお讃え申し上げます。 以 上

以上でございます。このように、「メッセージ」をくださいました教主様のご配慮に、皆さまと共に感謝申し上げたいと存じます。

①之光教団と致しましては、年頭にいただいた教主様の「新年ご挨拶」、先般の「春季大祭・豊穰祈願祭」にいただいたご教導、そして、本日賜りました「メッセージ」を心の中心にお受けして、「メシアの御神みかみ」という明主様の御神名を、心からの感謝と歓喜をもってお受けさせていただきたいと存じます。

私は、このたび、「メシアの御神」という明主様の御神名をお許しいただいたことにつきまして、例えようもない大きな嬉しさを感じるとともに、一方で、より一層身の引き締まる思いが致しております。

教主様は、先ほどの「メッセージ」の中で、

①之光教団の皆様は、私どもの代表であり模範であられる明主様に倣い、主神の子たるメシアとして新しく生まれるという福音を進んでお受けになり、この全く新しい救いの福音にお応えすべく取り組んでおられます。

と、このように仰せになり、だからこそ、私共がお唱えする明主様の御神名は「メシアの御神」が相応しいのではないかとお示しくさせていただきました。

私は、来月の意義ある「地上天国祭」を前にして、「明主様の全く新しい救いの福音」をお知らせいただいたものとして、その上、「大光明」のご神体と「メシアの御神」という御神名をお許しいただいたものとして、至らない自分であったとしても、それでも全身全霊を込めてお仕えさせていただかなければと、今あらためて強く思わせていただいております。

また、教主様は「メッセージ」の中で、私共が「メシヤの御神<sup>みかみ</sup>」という御神名をお唱えさせていただけることについて、

その御神名が皆様の中に存在しているからであります。

メシアの御名<sup>みな</sup>にある赦しが皆様の全身の細胞の中に、そして、すべてのものの中に存在しているからです。

私も、皆様とご一緒にメシアの御名にある赦しをお受けし、すべてのものと共に赦され、救われたものとして、大光明輝く天国に立ち返らせていただきたいと思えます。

と、このようにお示くださっています。

先般の「春季大祭」の折には、教主様は、

私は、私どもがメシアという御名に結ばれているからこそ、すべてのものと共に、赦され、救われているという、この大切な結びを忘れることのないようにしなければ、とっております。

とお導きくださり、そして最後に、

主神は今、私どもがメシアの御名にある赦しを信じ、その赦しを受け入れるか否か、そのことを一人ひとりに尋ねてくださっているような気がいたします。

と、ご教導くださいました。

私は、「大光明」のご神体奉斎と、このたびの「メシヤの御神」という御神名の改定をお受けすることを通して、私共が、自らのうちに初めから存在している神様の光と「メシアの御名」に目覚め、そして、その「メシアの御名」にある愛と赦しと救いのみ心を素直にお受けさせていただくことを、神様が今、私共に強く促してくださっているように受け止めさせていただいております。

同時に、私は、その神様が今、「光のお言葉」をもって、私共に臨んでくださっていると思えてなりません。

神は光にして光のあるところ  
平和と幸福と歓喜あり

無明暗黒には  
闘争と欠乏と病あり  
光と栄えを欲するものは来れ  
来りて

メシアの御名を  
奉称せよ

さらば救われん

私は、神様が、「メシアの御名」にある赦しをもって、私共を天国に迎え入れるために呼び掛けてくださっている「光のお言葉」を、全人類の代表であるという自覚をもって、明主様と共にあるメシアの御名にあつて、心からお受けさせていただきたいと一層強く思わせていただいております。

そして、私は、⑤之光教団の全ての専従者、信徒の方々とご一緒に、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」を中心に、日常生活の事柄全てを、「祈りの言葉」による“想念の御用”とさせていただき、この神様の呼び掛けに大いなる喜びをもってお応えさせていただく道を、一生懸命歩ませていただきたいと思います。

このようにして、私は、“明主様の全く新しい救いの福音”に微力ながらお仕えさせていただき、1日も早く「メシヤの御神」という明主様の御神名を、心からの歓喜と畏れ多さをもってお唱えさせていただきたいと思わせていただいております。

来月6月15日、「メシヤの御神」を奉称させていただける極めて意義ある「地上天国祭」を、私は、全国の皆さまと共に心いっぱいの喜びと感謝をお捧げし、神様をお讃え申し上げるみ祭りとさせていただきたいと存じます。

最後に、先般の大祭にて教主様がお示しく下さいましたように、全国の皆さまと共にという思いで、ご一緒にお祈りさせていただきたいと存じます。

“明主様と共にあるメシアの御名にあつて、父母先祖の方々と共に、万物と共に、主神の赦しをお受けさせていただきます” “このみ恵みがすべてのものに分け与えられますようお使いください。お仕えさせていただきます” “吸う息吐く息のうちに、み心を成し遂げてくださいますように。主神に委ねさせていただきます”

本日も、こうしてご一緒に、明主様にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げ、今月の皆さまのご神業奉仕に大いなるみ恵みと安らぎを賜りますよう祈念しまして、「月次祭」の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。